

令和6年度 北海道中学校体育大会 バドミントン大会における熱中症防止対策 及び競技進行が困難な場合における代表選手・チームの選出方法について

北海道中学校体育連盟事務局

【全競技に関わる熱中症防止対策】

- ・各競技における基本的な熱中症防止対策については、「北海道中学校体育大会における熱中症防止対策」（当連盟HPの「規約・お願い・連絡事項」のページに掲載）に基づき、大会運営を行う。
- ・会場の暑さ指数計において、暑さ指数（WBGT）が31℃（※気温と同じ単位であるが、気温だけではなく、気温・湿度・日射・輻射を総合した指標）に近づいたり、31℃を超えたりした場合には、会場の換気や観戦者の入場制限（屋内競技のみ）、大会の中断、競技日程の変更などの措置を検討する。
- ・前日の17時に気象庁より発表される「熱中症特別警戒アラート」（※「熱中症警戒アラート」とは異なる）が発令された場合には、その日の大会の中止を検討する。
- ・会期中に試合やレース等の全日程を終了することができなかった場合には、各競技ごとの基準に基づき、全国中学校体育大会の北海道代表選手及びチームを選定する。

【バドミントン大会に関わる熱中症防止対策】

○ 基本的な対策

- ・日本スポーツ協会が定める熱中症予防ガイドブック、北海道中学校体育連盟が定める熱中症防止対策に基づいて大会運営を行う。
- ・選手の生命の安全を最優先としながら、競技続行ができる環境づくりに最大限努力する。
 - ① 試合の中断、換気、観戦者の入れ替え等を行なってWBGTの数値の改善を図る。
 - ② 試合に支障がない範囲で試合中も空調の作動や換気を行う。
 - ③ 試合をしている選手以外の会場内にいる人数制限を行う。
 - ④ 全ての観戦者に退出してもらい、無観客状態で試合を再開する。
 - ⑤ その他の対応については、その時の状況に応じて大会実行委員会と協議しながら対応を行う。
- ・試合の途中で中断あるいは中止が判断され、その後再開する場合は、大会運営規程第27条に則って行う。
- ・残りの日程で通常のスコアリングシステムで競技の消化が困難と判断される場合は、残りの試合を「競技規則付録3 代替スコアリングシステム」で実施する場合がある。

● 競技が進行できない場合の代表選手・チームの選出方法

- ・大会期間以外の別日程での決定戦等は行わない。
- ・競技日程が残っている場合は、翌日以降に順延し、競技を続ける。競技を続けられるかどうかの判断は、北海道中体連事務局、開催地区中体連、大会実行委員会、レフェリーが協議をして判断する。
- ・競技進行ができないと判断がされた時点で成立している試合結果は生かすこととする。その時点で全国大会の出場権を得ている場合は、その出場権は成立しているものとする。
- ・出場権が規定数を満たしていない場合は、以下の基準に基づいて選出する。選出は北海道中体連事務局、開催地区中体連、大会実行委員会、北海道中体連バドミントン専門委員会、レフェリーが協議をして判断する。

【団体】

- ・競技中止の判断がなされた時点で勝ち残っている学校（クラブ）の中から、以下の順に最大2校を選出する。
 - ① 前年度の北海道中学生新人バドミントン競技選手権大会の1，2位の学校（クラブ）がある地区中体連の代表校。
 - ② 前年度の北海道中学生新人バドミントン競技選手権大会の3位の学校（クラブ）がある地区中体連の代表校。当該大会の団体戦では3位決定戦が行われていないため、3位2校のうちから1校を選出しなければならない場合は、可能であれば代表決定戦を行う。できない場合は、監督による抽選を行い決定する。なお、2校が同一地区中体連の代表である場合は、地区予選の結果を反映して決定する。
 - ③ その時点で勝ち残っている学校（クラブ）の中から、監督による抽選で決定する。

【個人】

- ・競技中止の判断がなされた時点で勝ち残っている選手の中から、以下の順に最大4名（組）を選出する。なお、①～③においては、種目替え、ペア替えがある場合は、対象外とする。
 - ① 前年度の北海道中学生新人バドミントン競技選手権大会の1，2位。
 - ② 前年度の北海道中学生新人バドミントン競技選手権大会の3，4位。
 - ③ 前年度の北海道中学生新人バドミントン競技選手権大会のベスト8。複数の候補者の中から選出しなければいけない場合は、前年度の全日本ジュニアジュニア新人の部南北北海道予選、中体連全道大会の結果および直近の直接対決の結果などを総合的に判断して選出する。ただし、明確な差が認められない場合は、候補者全員による抽選で決定する。
 - ④ その時点で勝ち残っている選手の中から、選手による抽選で決定する。